

# 宮城の仮設を阿波踊り慰問

仮設住宅の敷地に響く鳴り物と「ヤットサー、ヤットヤット」のかけ声、音色につられて顔を出す仮設住まいの人たち。埼玉・南越谷阿波踊り振興会の有志連が5月25日、「阿波踊り慰問」で宮城県名取市の美田園第一仮設住宅地（全128戸）を訪れた。慰問は、埼玉・南越谷に阿波踊りを広めた中内俊三氏を創業者に持つポラスグループ（中内晃次郎代表）が仮設建築に携わったことをきっかけに始まり、今年で3年目を迎える。ポラスグループは同社の有志社員で構成するPO連の参加を含め、阿波踊り慰問の企画と実行を毎年支援している。慰問に同行、現地を訪れた。

## 仮設建築契機に3年目

名取市の美田園第一仮設が2人いる。とまってる住んでいる。自は現在、民間の賃貸に移り住居者などが出て行ったため、15戸が空いている。住み続けている人たちには行き先を決めかねていたり、2017年度までに建てられる予定の災害復興公営住宅への入居を検討している人たちだという。



「流し踊り」で仮設住宅の敷地内を練り歩く有志連



せるように行政に強く働きかけたためだ。

美田園第一の仮設住宅

愛島東部仮設住宅地の自治会フェイスブックには、「この場所から退去せざるを得ないのは頭では理解できるんですが心がついていけません。私たちがほどうなるんでしょうか」（原文ママ）とのツイートを載る。高橋さん一部が踊りに参加。は「ここ（美田園第一仮設）は（愛島）東部のよ地期限が今月末に切れるうなことは起きないとは可能性があるにもかかわらず、行政側が直前まで住民側に説明を行わな



音色に誘われて見学する住民

波踊り振興会「の踊りを教え、有志連が慣れない身振りでも元気をもらったのちに集会所で休憩らえる」とをかねて歓談、その後南越谷阿波踊り振興会の有志連は移動バスに乗り込み、慰問の阿波踊りは敷み、住民と互いに手を振地内の道路を、南越谷阿波踊り振興会の有志連約30人がき出し仮設住宅の方向を振り返った。もはや小さな姿となった見送りの人たちは、依然として腕を頭上高く上げ、バスに向

名取市では今、仮設住宅を巡る問題が起きています。市内最大規模の仮設住宅地・愛島東部仮設住宅地の用地返還問題だ。民有地である当該地の借地期限が今月末に切れる可能性があるにもかかわらず、行政側が直前まで住民側に説明を行わな



集会所の前で住民と共に